

GEKKAN ORIMOTO

月刊 織本

8月号

2009年8月1日 Vol.180

発行 医療法人財団 織本病院

印刷 〒204-0002 東京都清瀬市旭が丘 1-261

Tel 042-491-2121 URL <http://www.orimoto.or.jp/>

発行人 高木由利



瑠璃茉莉

思い出（1）

理事長・院長 高木由利



織本農園が賑やかになってきました。プチトマトも色づき始め、患者さん達の食事に彩りを添えています。決して派手な働きではないのですが園芸グループのコツコツと積み上げていく作業に私は心から感謝しています。

* * *

織本病院は昭和27年に『医療法人財団 織本病院』となりこの清瀬での活動が始まりました。開院当時は清瀬駅南口の竹丘という地にあり結核専門病院だったのです。木造平屋の病院で木の長い廊下があり、病室のドアはガラガラ開けるガラスの引き戸でした。

小さい頃、私は母に手を引かれこの病院に幾度となく訪れましたが、とても怖い所だと思っていました。廊下を歩いていると体中に包帯を巻きつけた男の人が病室の中から“おじょうちゃん、おいでおいで”と言って手招きをするのです。母は静かに微笑んで会釈をしていましたが、私は母の手をぎゅっと握りしめ息もせずにごの方を見つめた記憶があります。今思えば、若い院長の妻と娘が来訪したのですから患者さん達は歓迎の気持ちで幼い私に手招きをして下さっていたのだと思います。母は私にいつも手作りの洋服を着せてくれました。きれいな色のワンピースとフリルのつい

たソックス、そして白いサンダルを履いて病院に行った覚えがあります。こんなに怖い所に行くのにどうしてよそ行きの洋服を着ていくのか私には分かりませんでした。

病院には広い庭があり、年に1度運動会もありました。職員達ははち巻きをして徒競走やリレー、パン食い競争、騎馬戦、フォークダンスを楽しそうにしていました。私は手作りの小さなお弁当箱と水筒を持っていきました。やはり怖いのでいつも母の膝の上に座っていたのです。私はこの運動会を見ていつも不思議に思うことが幾つかありました。

- ① 看護婦さん達はズボン履かないで長いプリーツスカートではち巻き姿。どうして体育着のズボンを履かないのか。そしてその姿でリレーをしていること。
- ② 騎馬戦の馬は全部看護婦さんで、その上に父が乗って戦っていたこと。

などなど、色々疑問だらけでした。そうそう、もう1つありました。パン食い競争に使うパンはいつもあんパンで私の好きなチョコレートパンやクリームパンではなかったことです。私はいつも首をかしげていましたが職員達は本当に楽しそうでした。織本病院が57

年も続いてきたことの中にいつも職員達みんなと一緒に楽しい時間を過ごすという習慣があり、その1つがこの運動会だったのかもしれませんが。

私はこの病院を永遠に存続させるために皆で作りに

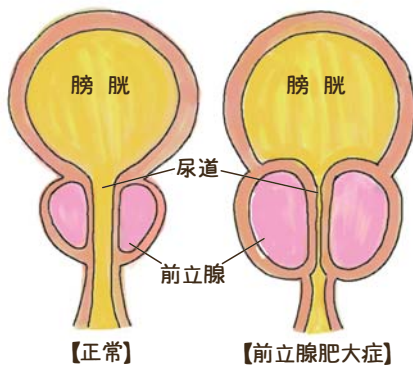
上げていき、皆で喜びを分かち合う時間をもっともっと作っていく必要性を痛感しています。

前立腺肥大症



聖マリアンナ医科大学腎泌尿器外科 助教 佐々木 秀郎

前立腺とは、膀胱の出口にある尿道を取り囲んでいる男性にだけある臓器で、正常の大きさはくるみ大です。前立腺の病気には、前立腺肥大症、前立腺癌、前立腺炎などがありますが、中でも多いのが前立腺肥大症です。この病気は前立腺が大きくなることによって生じるもので、初期の症状としては、尿の勢いの低下・尿線途絶（排尿の途中で尿が途切れる）・夜間頻尿などがあります。そして症状が進行するにつれ残尿感を感じたり、1回の尿に数分もかかるといった様々な排尿障害をもたらします。時には尿閉(尿が全く出ない)になってしまうこともあります。



されていません。また高血圧症・高脂血症・糖尿病・肥満症などの生活習慣病が前立腺肥大症の増悪因子であるとの報告もされています。これらの生活習慣病を改善することが治療効果を高めるのではないかと考えられます。“尿の出が悪いな”と感じたら一度泌尿器科を受診してみてください。

前立腺肥大症を診断するために病院で行う検査は、超音波検査、尿検査、血液検査、尿流量測定検査（排尿状態の評価）などです。また、国際前立腺スコア（図1）、QOLスコア（図2）を用いて症状の程度、困窮度の評価も行い、検査結果と合わせて診断します。病状の進行程度で手術が必要となる場合もありますが、近年の内服薬の進歩により手術が必要ない患者さんが多く、現在では内服による治療が中心になっています。

先ほど述べたように、高齢化や生活習慣病の増悪因子により前立腺肥大症の患者は増加していますが、実は前立腺肥大症のみならず前立腺癌も増加していま

前立腺肥大症は高齢男性に高い確率で発症する病気で、近年の高齢化に伴い患者数が増加していることが厚生労働省の調査で報告されています。しかし原因はまだ解明

【図1】 国際前立腺スコア

最近1ヵ月間	まったくなし	5回に1回の割合未満	2回に1回の割合未満	2回に1回の割合	2回に1回の割合以上	ほとんど常に
1. 排尿後に尿がまだ残っている感じがありましたか。	0	1	2	3	4	5
2. 排尿後2時間以内にもう一度行かねばならないことがありましたか。	0	1	2	3	4	5
3. 排尿途中で尿が途切れることがありましたか。	0	1	2	3	4	5
4. 排尿をがまんするのがつらいことがありましたか。	0	1	2	3	4	5
5. 尿の勢いが弱いことがありましたか。	0	1	2	3	4	5
6. 排尿開始時にいきむ必要がありましたか。	0	1	2	3	4	5
7. 床に就いてから朝起きるまで普通何回排尿に起きましたか。	0回	1回	2回	3回	4回	5回以上
	0	1	2	3	4	5

1～7の合計点数 _____ 点

【図2】 QOLスコア

満足度	大変満足	満足	大体満足	満足・不満のどちらでもない	不満気味	不満	大変不満
現在の排尿の状態が一生続くとしたらどう感じますか。	0	1	2	3	4	5	6

す。今回織本病院で新しく導入された超音波検査の機械は、今までより鮮明な画像診断だけでなく、前立腺癌の診断に不可欠な前立腺生検も可能になりました。前立腺癌を見逃さないためにも排尿障害を自覚された場合には早めに泌尿器科を受診し、前立腺癌も含めて検査を受けられることをお勧めします。



前立腺肥大症の最大の危険因子である加齢は防ぐことができませんが、予防のためには増悪因子である生活習慣病にならない、または改善することや、日常生活においてもオシッコを我慢しない、適度に運動する、体を冷やさない、便秘に気をつけるなどを心がけることが大切です。

— 佐々木医師の泌尿器科外来 —

◎ 診療日：毎週火曜日 午後（14：00～）

◎ 予約制 TEL 042-491-2121

（予約なしでも受付可能ですが予約の方が優先となります。）

THE Vol.45

病理診断

『シボレーの思い出』

聖マリアンナ医科大学 診断病理学教室教授

高木正之 先生



私は25年前に米国に留学していた時、GM（ゼネラル・モーターズ）社のシボレーという大きな車に乗っていました。ある晩、ニューヨークのハーレム近くの高速道路を走っていたら急にエンジンが止まってしまいました。幸い道路の端に止まることができ命は助かりました。シボレーを運転しているとフワフワした気持ち良さがありました。しかし、燃費はリッター1キロ位でガソリンを垂れ流して走っているようでした。そのGM社が6月に経営破綻したのです。その日の朝日新聞のコラムに「原罪を忘れた覇者のおごり」と題する次のような記事がありました。

「自動車産業は『原罪』を背負って誕生した産業である。自動車は人間の自由な移動を可能にしたが、交通事故を起こし、二酸化炭素排出など環境の負荷を与えるという『原罪』を抱いている。自動車産業が生き残る条件は、『原罪』を贖^{あがな}うために努力し続けることに尽きる。しかし、その努力をGM社は怠った。儲けが優先され、燃費向上のためのエンジン開発やハイブリッド車などのエコカーへの投資意欲は薄れていった。短期的な利益を求め、『原罪』を克服するための地道な努力を怠ってしまったのだ。」

原罪とは人間の生まれつきの弱い性質です。それを克服する方法が「贖^{あがな}う」ことです。「贖^{あがな}う」とは「買い戻す」という意味であり、聖書では人間の原罪を神様が買い戻して下さったと言っています。GM社はその原罪を贖^{あがな}うための投資が必要だったのです。

私が社会人として背負っている原罪は何だろうかと考えました。それは仕事だと思えます。仕事を一生懸命していることで社会に貢献し経済的に豊かになりシボレーのような車に乗れるようになります。しかし、一方で頑張れば頑張るほど家族や友人と過ごす時間の大切さを忘れ、いつの間にか仕事中毒のようになってしまう弱さがあります。それを贖^{あがな}うにはどうしたらよいのでしょうか。損を覚悟で自分の時間の使い方を変えていくことです。その投資は決して無駄にはなりません。気をつけないと、私の人生もGM社のように破綻してしまうかもしれません。

織本農園だより

夏、真っ盛り！照りつける太陽と・・・と書きたいところですが、七月の下旬から続くこの梅雨のよ
うな天気。そんなジメジメした環境の中でも夏野菜
は負けずにスクスク育っています。

こんにちは、織本病院園芸部です。我が園芸部が
野菜を育て始めてから、今年の夏で丸三年目を迎え
ました。用度課の私とケアセンターのクラークの二
名が中心となって手入れをしています。ツルもの
を巻きつけるヤグラ建てなど、大掛かりな仕事の時
はスケルトンとして施設用度課の力を借りたり、送迎
車の運転手さんを始め職員たちが空いた時間に雑草抜きをしてくれたり、患者さんや面
会に来られた方からアドバイスを受けたりと、色々な方の手助けを頂いて野菜を育てて
います。夏はきゅうり、なす、さやえんどう、ピーマン、玉葱、かぼちゃ、里芋、茗荷、
冬には大根、白菜、水菜、春菊、ジャガイモなどの野菜を収穫しています。

私たちが患者さんとお話していると、「どうしたら、こんなに大
きく育てることができるんですか？」という質問をよく受けます。し
かし、その答えは残念ながら私たちにもはっきり分かりません。この
清瀬の土壌や気候が、野菜を育てる環境に適しているのでしょうか？
もしかしたら、仕事と仕事の合間に水遣りや肥料あげなど
を行なっているスタッフの愛情が野菜たちに通じているの
かも知れません。

今後も、試行錯誤しながら色々な野菜に挑戦していきたい
と思います。病院の行き帰りには、是非、畑にもお立ち
寄りください。



◆◆◆ お礼 ◆◆◆

先日、月刊織本の愛読者の方々からお手紙をたくさん頂きました。
こんなに暖かいお心で読んで頂けることに私は心から感謝しております。
本当にありがとうございました。

理事長・院長 高木 由利

第101回 腎疾患ゼミナール

『腎不全を克服しよう!! ⑧』 腎臓内科：高木 由利

栄養科からのワンポイントアドバイス

『でんぷんパン使いきり大作戦!!』 管理栄養士：橋口 愛深

日 時：2009年8月20日（木）
午後1：00～2：00
会 場：オリモホール（当院4F）
参加費：無料

※9月の腎疾患ゼミナールは24日（木）から25日（金）に変更となりました。